

サビエル生誕五百年



巡礼の道

48

藤屋 侃士
(下松市幸ヶ丘)

日本人彫刻家

今、秋川雅史が歌う「千の風になって」が大ヒットしている。先日はデパートの館

内放送でも耳にした。妻も音程は狂っているが口ずさむ。私も負けはならじとCDと同じ

名の本を買い求めた。原詞は英語で、作者は不明。欧米では大分前から葬儀の時、この詩が朗読されている。今、日本でヒットし



完成した“生誕の門”



外尾悦郎氏

ているのは、芥川賞作家、新井満氏の訳・作曲によるもので、テノール歌手・秋川雅史が歌う「千の風になって」は確かに聴きごたえがある。

今の大ヒットは、昨年の紅白歌合戦で秋川が歌ったことが引き金になったのは間違いない。

（天使を彫刻）
そこに三十年前から働いている日本人彫刻家がいる。

外尾悦郎、五十四歳。一九七八年から聖家族教会の専任彫刻家を務めている。

彼は三つのファサード（建物正面）のひとつ「生誕の門」の十五体の天使像の彫刻を担当した。

（洗礼を受ける）
ガウディが亡くなったのは一九二六年。外尾氏が生まれたのは一九五三年、当然のことだが、彼はガウディに会っていない。

ガウディはほとんど図面を書かず、模型を作りながら建設を進めていた。その模型も内戦で壊されたため、建設を受け継いだ人たちは大変苦労し、模型を復元したりしながら工事を進めている。

外尾氏もたक्सさんの先輩の意見を聞き、少しでもガウディに近づく努力をしたという。それでも壁にぶつかった時、彼はガウディと同じ信仰を持てば少しも近づけるかもしれないと思ひ、カトリックの洗礼を受けた。

この話には感動した。そして、同じ信仰を持つていふことを誇りに思うと同時に、自分の信仰の生ぬるさを恥じた。

（元山口放送取締役ラジオ局長）



外尾氏の最初の天使像

このように何かのきっかけで爆発的ブームになることがある。

（建物正面）のひとつ「生誕の門」の十五体の天使像の彫刻を担当した。

最初は断られたが、日参してとうとう試験を受け、専任彫刻家になった。

今ではかなり有名人になり、インスタント・コーヒーのテレビCMに出たりしたのでご存知の方も多いと思う。

著書には「バルセロナ石彫り修業」「バルセロナにおいてよ」「ガウディの伝言」がある。聖家族教会のことがよくわかる本だ。